

公開講座活動報告

法人・団体名：山口県母性衛生学会

テーマ：山口県母性衛生学会 40 周年記念学術講演会 特別講演

「夫婦のトリセツ／家族のトリセツ」

講師：黒川 伊保子先生（株式会社 感性リサーチ代表取締役社長）

開催年月日：令和 5 年 7 月 23 日 13：30～14：30

会場：山口市産業交流拠点施設 KDDI 維新ホール メインホール

講演概要

ヒトと人工知能の対話研究の立場から、コミュニケーション・サイエンスの新領域を拓かれた感性研究の第一人者であり、『妻のトリセツ』『夫のトリセツ』をはじめとするトリセツシリーズを多数執筆されている黒川伊保子先生を講師にお迎えし、「夫婦のトリセツ／家族のトリセツ」と題して講演いただいた。

人間の脳には問題が起こった時に「とっさに使う思考回路」として、「ことのいきさつ」を反芻して根本原因に触れようとする回路と、「今できること」に意識を集中して早急に動き出そうとする回路の二種類がある。誰もが両方の回路を持ち合わせているものの同時に起動できず、とっさの時にはいずれかの回路を選ぶことになる。生来の優先側は、女性の多くが「ことのいきさつ」派、男性の多くが「今できること」派である。男性の多くは広い範囲を見て動く物に瞬時に照準を合わせる一方、女性の多くは近くをつぶさに観察してわずかな変化も見逃さない物の見方をする傾向にある。夫婦は異なる思考回路をもちながら互いを補い合うことから、子どもを守り抜くペアが自然にできあがるようになっている。

しかし、この二者の対話構造は異なっており、コミュニケーションがすれ違うことが多い。「ことのいきさつ」派は「共感型」であり、自分の思いを語り相手に共感してもらうことでストレスが減衰されるため、相手に共感とねぎらいを求めている。一方、「今できること」派は「問題解決型」であり、速やかに問題解決しようとして結論を急ぐ対話構



造となる。

「とっさに使う思考回路」が異なる二者間のコミュニケーションでは、「共感型」は相手に思いやりの不足・人間性の欠如を感じ、「問題解決型」は相手に客観性の不足・知性の欠如を感じてしまう。お互いに誠実に相手のことを思っているにもかかわらず、相手を理解することにつながらず、すれ違いが生じることになる。

本講演では、人間の対話構造の違いを理解した上でコミュニケーションが円滑に運ぶ方法について、具体的な対話例を用いて教授いただいた。対話の奥義として、「人の話は共感型で聞く 自分の話は問題解決型で話す」とのメッセージが紹介され、相手を尊重しながら、コミュニケーションにおけるストレスを軽減する方法について理解を深めることができた。また、家族は共感し合い、子どもは共感で育てることの大切さについても教授いただいた。

本講演会には、様々な年代の方に多数ご参加いただき、コミュニケーションへの関心の高さがうかがえた。夫婦間・家族間の円滑なコミュニケーションは家族関係のみならず子どもの健全な発育・発達に影響を及ぼすことから、参加いただいた皆様に日常生活において広く活用いただける内容を教授いただいた。

今後も一般の皆様のニーズに沿った活動を展開していく予定である。

